




独立行政法人国立病院機構
 **松江医療センター**
呼吸器病センター
 〒690-8556
 松江市上乃木5丁目8-31
 TEL(0852)21-6131 FAX(0852)27-1019
 URL <http://www.matsue-medicalcenter.jp/>
 発行責任者
 院長 徳島 武
 編集者
 事務部長 亀崎 卓夫



国賀海岸

国賀海岸は、隠岐諸島の西ノ島北西部に位置する自然景勝地で、日本海の荒波が造りだした断崖や洞窟などが約7kmに渡って続く海岸線です。その中でも摩天崖は、ナイフで垂直に切り取られたような高さ257mの大絶壁は日本一の高さです。また、地上には牛や馬が放牧されている牧草地となっており、非常に穏やかな光景を見せ、対比的な景観となっています。

もくじ

院長年頭あいさつ	2	最新CT導入	12~13
40周年記念祝賀会	3	高校生インターンシップ	13
第2回院内発表会	4	地域医療連携室だより	14~15
第2回松江呼吸器セミナー	6	教育研修部から	16~17
ケーススタディ発表会	7	健康フェスタ	17
神経・筋難病看護研修参加	8	ピアノ寄贈	18
てんかんセミナー参加	9	菊花展	18
総合医学会ベストポスター賞受賞	9	イルミネーション	19
年男、年女	10~11	松江医療センター元気宣言!	19
しじみ会	11	外来診療表	20
臨床研究ポイント	12		

基本理念 私たちは、真心と思いやりをもって良質な医療を提供します。



平成24年「年頭のご挨拶」

国立病院機構松江医療センター 院長 徳島 武

明けましておめでとうございます。新しい年を迎えられ、心新たに今年の誓いを立てられた方も多いかと思えます。また暮れからお正月休みの間にも、入院の患者さんや救急の患者さんの為に勤務された職員の方々は大変ご苦労様でした。今年も職員の方々の益々のご健勝をお祈りしたいと思います。

さて昨年は大雪で新年を迎え、千年に一度といわれる3月11日の大震災と原発事故や円高による経済不況など、わが国は多くの試練を経験しました。その一方で辛抱強さとか助け合い、絆、団結など、日本人古来の良さや強さが再認識できた年でもありました。

今年はいったいどんな年になるのでしょうか？ひきつづき大震災や原発事故への対応はもとより、消費税率の引き上げ、TPP参加問題、社会保障と税の一体改革等々、民主党政権が取り組むべき難題は山積みです。しかしそのどれをとっても現政権ではなかなか実現は難しく、混迷の状況が続いております。年内にも解散総選挙も予想されていますが、しっかりと日本の将来を見据えた政策を国民に示してほしいものです。

国立病院機構は独法化以後の8年間着実な歩みをしておりますが、一昨年来の事業仕分けや行政刷新会議により、そのあり方や運営費交付金などが問題とされています。そして24年度予算では国からの運営費交付金はさらに大幅に削減されます。矢崎理事長の提言される新たな組織体である、「国立医療法人」への衣更えや、職員の非公務員化への道はいまだ遠い感じがします。また本年4月からの自立支援法改正に伴う療養介護サービス移行の経過措置については、重心施設を有する病院に大きな影響を与え、このままいけば機構全体でも年間100億円近い減収が予想されます。機構全体の問題として取り上げ、早急な対策を講じる必要があります。

さて当院は今年、新病院の「工事着工の年」であり、また電子カルテ導入等に対応する「準備の年」であります。現在既に新病棟裏ではリニアック棟の工事が始まっていますが、今春には総合診療棟の工事が入札を経て着工します。そして来年夏頃の完成となります。このような事業を成し遂げるためには、やはり病院としての健全な経営管理が必須であり、昨年末時点で預託金を含めた蓄えも予定の10億円を超えました。当院がこのような短期間で着実に黒字基盤を確立できたのも、職員皆さん一人一人の努力の賜物と思っています。心から感謝いたします。

また当院の療養介護サービス移行への対応としては、4月に看護師と療養介護職を生活支援員として多数採用する予定です。一方で市町村の行政に働きかけ患者さんの障害区分認定を早急に行う予定です。4月まであまり時間はありませんが、関係職種の方々のご理解ご協力をよろしく願います。

今年「辰年」です。私自身は「還暦」を迎え、5回目の年男です。辰や龍にちなんだ故事やことわざは幾つかありますが、「登竜門」という故事成語があります。一般に「登竜門」といって、立身出世の関門とか、期待の若手の参加する試験や試合などによく使う言葉ですが、元々は「竜門」とは中国の黄河の上流の流れの急なところで、ここを鯉が登ると龍になるという伝説から来ている言葉だそうです。

今年当院にも幾つもの課題（急な川の流れ）が目の前に待ち受けておりますが、どうか職員が一丸となって、この急流を登り切って新病院を完成し、鯉が龍になるが如く、将来において内外ともに誇れる病院づくりを目指して頑張りましょう。どうか今年もよろしく願います。

創立40周年記念祝賀会

管理課長 苅田正人



松江医療センターの創立40周年記念祝賀会が11月5日、松江市西嫁島のホテル宍道湖で開かれ、現職員、OBら約80人が節目を祝い、今後の発展に向けての決意を新たにしました。

祝賀会ではまず、徳島院長が「ローマは一日にしてならず」という言葉を引用し、当院が今日に至るまでに、多くの苦しみと喜びがあったが、「国立」という伝統の精神を持ちながら、心をしっかりと結び合い、絶え間ない努力を続けてきたことを述べられ、われわれ現役職員も、今日を大事にするだけでなく、これまでの道程や歴史についても、大切にしたいと挨拶されました。そして最後に次の目標である25年春の新病院完成に向かって、さらにモチベーションを高めていきたいと強調されました。

名誉院長の中井先生は祝辞の中で平成10年からの院長在任中の出来事に触れ、医療事故があったことや、看護学校や病棟の閉鎖、独立行政法人化への移行など激動の時であったと述べられ、また独法前には病院経営は赤字だったが、独法後は運営の効率化など職員の努力によって黒字経営に転換したこと

に感謝されました。そして最後に松江医療センターが専門性の高い病院としてますます発展するようエールを送られました。

統括診療部長の発声による乾杯後は、各テーブルともOBを囲み昔の思い出話に旧交を温めておられました。また元看護部長の田中 幸様と臨床検査技師長の森山善芳様からOB代表として、壇上にて在職当時の思い出話をしていただきましたが、皆懐かしく聞き入っていました。

アトラクションとして、院長の出身地である掛合太鼓保存会による和太鼓の演奏が行われました。生で聞く太鼓の音は「ドオオーン」と余韻が長く、演奏中は耳で聞くと言うより体全体が振動に包み込まれるような感じを受けました。そして保存会代表者の巧妙な話術も加わり、現職員からカーテンコールがあった程で、出席者の皆さんはその迫力に圧倒され、またそのすばらしさに感激していました。

最後に矢野副院長の閉会の挨拶で名残なきぬ祝賀会も終了となりましたが、各テーブルとも久しぶりの同僚との顔あわせに話も弾んだ有意義な会であったと感じました。出席された皆さん本日はご苦勞様でした。



第2回院内発表会

～『チーム医療』の起爆剤になりえたか？～

呼吸器科医長 門 脇 徹

2011年11月5日(土)。

第2回院内発表会が開催されました。昨年の第1回院内発表会はしばらくぶりの開催であったため、まずは各部門・職場がどのような仕事をしているのか？を知るいい機会になりましたし、当院の近年のテーマである「チーム医療」を考えるいいきっかけになったと考えております。

さて、第2回となった今年はさらにチーム医療について病院全体で学ぶ機会を得たいと考えました。今年の日玉は3点。まずは東京医療センターの尾藤誠司先生による特別講演を企画しました。2点目はポスター掲示の際にはdiscussionできる時間を設け、そして口演のセッションに若手セッションを設けました。

さてその新しい3点について主催者側として感想を述べたいと思います。まずは東京医療センター尾藤誠司先生による特別講演「チームで考える患者にとっていいこと」。私は2年前にNHO本部で行われた臨床研究の研修で尾藤先生に大変お世話になりました。その際初めて尾藤先生にお会いしたのですが、尾藤先生のオーラと素晴らしいプレゼン力に圧倒されました。機会があれば、先生のご講演や、研修にもう一度参加してみたい、そう思っていました。しかし、尾藤先生は「医師アタマ」などの著書もあり、様々な方面でご活躍の先生ですので、bookingがなかなか難しいのです。今回はそんなお忙しい先生が2年越しのラブコールに応えてくださったのです！



その尾藤先生の御講演は素晴らしい一言でした！参加した方はお分かりと思いますが、ユーモアを交えながら問題の核心に迫るスタイル。講義一辺倒ではなくworkshop形式で話を進めていく。参加した職員の方々には心に残る特別講演だったと思います。職種間のcommunicationの重要性とその難しさについて改めて考えさせていただくいい機会だったと思います。そしてworkshopには当院の幹部の先生方が積極的に参加してくださった姿に心からうれしくなりました。この姿を見ていると当院でもホンモノのチーム医療を目指すことができる、そんな風に思えました。尾藤先生には数年後に再度お越しいただき、その際に当院の成長した姿をお見せすることができたらぁなんてことも思ったりしました。

ポスターセッションは、盛況だったと思います。昨年は掲示だけで、空き時間に内容を見るだけで、発表者とdiscussion

できなかったのですが、今年は発表者がポスターの前に立ち、いわゆるviewing timeを設けましたので、発表者と参加者との間のdiscussionが見られました。会場が研修室であり手狭でしたが、昨年よりは改善されたと考えております。



次に若手セッションについて。5名の演者に発表していただきました。5年目までの若手ということで、緊張の中での口演であり、聴いてるこちらにもその緊張が伝わってきました。初々しさの中にも情熱が伝わる発表でした。どの発表内容も院内外で既発表のものでしたのである程度brush upされたものであったと思います。来年以降も若手職員の登竜門的セッションとして院内発表会において大事にしていきたいと考えております。

という私は全体の統括責任者の1人として参加・運営に関わりました。ランチョンセミナーでは「VA medical centerから想う松江医療センターのこれから」と題して7～8月に同病院に短期留学した報告もすることができました。私なりにVA medical centerで得た経験を当院にどう生かすか？という自分の考えや提言もさせていただくことができました。VA medical centerで見聞きした『チーム医療』について話をすることができましたし、他にも研修してきたこと(=遊んできたんじゃない！)証明ができたと思っています(笑)。

来年の院内発表会の展望を。すでに来年に向けて準備委員会では準備を進めています。来年も若手セッションは継続いたします。若手の皆さんが院外へ飛び出していけるステップにしていけたらと思っています。職場内でプレゼン力を磨くこれとないステージです！全体としては研究色を強めていきたい、と思います。来年は院内発表会が国立病院総合医学会の前週に行われる予定です。国立病院総合医学会(神戸)にたくさん演題を出していただき、院内発表会において予行演習的な発表がたくさんされることも期待しております。

最後に。第2回院内発表会の準備、ならびに当日の運営に携わった職員の方々、そして当日参加して院内発表会を盛り上げていただいた職員の方々、本当にお疲れ様でしたという言葉と共にありがとうございました！来年以降も院内発表会を盛り上げていきましょう！

院内発表会 受賞コメント

理学療法士 平野 哲生

「脊柱側彎のある重症心身障害者に対する体位ドレナージが与える影響について」が院内発表会セッション3で表彰状をいただきました。私自身日々の臨床に忙しく（当然言い訳ですが）研究から遠ざかっており、7年ぶりの研究発表になりました。重心の研究は、病状も多様で評価が難しく、ツッコミどころ満載の研究になりましたが、数年にわたり疑問に感じてきたことを一つの形にできて嬉しく思います。まだまだ不十分な研究でしたが、無事発表を終えたこと、期せずして表彰していただいたことをご報告でき、ご協力いただいた皆様に少し恩返してきた気がします。研究に際して、アドバイスくださいました齋田先生、門脇先生、協力してくれたりハスタッフの皆さん本当にありがとうございました。

第2回院内発表を終えて

3階病棟 療養介助職 西尾 達也

今回、「車椅子の保守・清掃点検をおこなって」という題で院内発表させて頂きました。

内容としては、3階病棟の全患者様56名分の車椅子の保守点検と清掃を行った取り組みについてでした。毎日使う車椅子の安全性・清潔感を向上させたく、病棟の係3人で計画し、1年間取り組んだものです。「車椅子を毎日使うのに、安全性は大丈夫なのかな?」「汚れも気になるなぁ」と普段から思っているが、日々の業務に追われなかなかできなかったことです。係で56台の車椅子の清掃と保守点検を行う流れを考え、2ヶ月ごとに看護師、介護士で協力し合い1年間実施しました。そして、保守点検を定期的に行ったことで、11台13箇所の不具合・故障を発見し、修理しました。又、丁寧な清掃により車椅子は清潔になりました。患者様の車椅子の安全と清潔を向上させたことはもちろん、職員から「点検を行って良かった」「今後も続けるべきだ」との意見を多く聞くことが出来た取り組みでした。発表当日はとても緊張しました。質疑応答では、多くの質問を頂きました。そして、「車椅子点検・清掃について問題提起となる発表である」と評価していただきセッション賞を頂くことが出来ました。又、「56台も点検できたのはすごい」とも言って頂きました。56台保守点検・清掃できたのは、職員一人一人の頑張り、協力があったからこそ行えた事です。「すごい」と3階病棟職員を評価して頂き、とても嬉しかったです。1年間大変でしたが、頑張った甲斐があったと感じました。一人一人の力が合わさり、大きな成果が得られ嬉しいです。ちなみに、昨年の取り組みを基礎・土台に今年度も3階病棟では車椅子点検を続けています。

他職員の発表を聞き、「専門性の高い内容を上手にまとめ発表されてるなぁ」「こんなことに取り組まれているんだ」と感心し、自分も専門性のあること、もっと患者様の役に立てるようにと、モチベーションを高める事が出来た発表会でした。

第2回院内発表会の結果報告

第2回院内発表会の参加者とその世話をされた職員にアンケートを行った結果報告です。

参加者アンケートでは、参加者103名に対しアンケート用紙は30枚の回収でした。(回収率29.1%)…これが気になります!!

右下表がアンケート回答状況です。() 書きは昨年のデータです。%は回答者数を基にしたもので全体を示したものではありません。回答がなかった参加者の思いがどうかであったかによりますが、右下表から見る限り概ね良い評価であったと思います。

次に、当日世話をされた職員のアンケート（意見）の結果は、良かったという意見や反省点が多々ありましたが、次にほんの一部を載せます。

1. 運営方法について

○改善点・反省点

- ・座長は経験を積むといった観点から中堅職員が行った方が良い。
- ・研究的な内容を増やしていくためには早期に準備に入る。
- ・セッション毎の時間配分を見直す。

○良かった点

- ・担当部署に複数配置であったので、世話に専念し

なくても良かった。

2. その他気づき

- ・ポスター発表を質疑応答形式でなくディスカッション形式にした方が良い。

質問項目	評価			回答数
	長い	短い	適当	
実施時間について (10:00~15:00)	(1) 6	(0) 0	(44) 23	(45) 29
	(2.2%)	(0%)	(97.8%)	
	20.7%	79.3%	79.3%	
個別発表時間について (5分発表、3分質疑)	(1) 1	(4) 3	(40) 26	(45) 30
	(2.2%)	(8.9%)	(88.9%)	
	3.3%	10.0%	86.7%	
各セッションの時間について (40分)	(0) 0	(2) 0	(43) 30	(45) 30
	(0.0%)	(4.4%)	(95.6%)	
	0.0%	0.0%	100.0%	
特別講演の時間について (1時間)	(0) 1	(3) 3	(34) 24	(37) 28
	(0.0%)	(8.1%)	(91.9%)	
	3.6%	10.7%	85.7%	

質問項目	評価		回答数
	良い	悪い	
全体の構成について (セッション4本、特別講演)	(35) 26	(1) 0	(36) 26
	(97.2%)	(2.8%)	
	100.0%	0.0%	

第2回松江呼吸器セミナーを開催して

医療教育研修室 杉谷 美奈子



特別講演
接触嚥下障害認定看護師
寺尾 聡子先生

12月3日(土) 松江テルサで「誤嚥性肺炎対策のキーポイント」というテーマで第2回松江呼吸器セミナーを開催しました。門脇医長、平野PTのそれぞれの立場からの講演の後、特別講演として、国立病院機構 徳島病院 摂食嚥下障害看護認定看護

師 寺尾聡子先生に「誤嚥性肺炎防止に出来ること」と題して講演していただきました。

参加者は154名で、うち当院からも31名の参加がありました。

アンケートには、「とても役立つ内容だった。」「誤嚥と言えはすぐ絶食・嚥下食としていたが、観察する等他にも出来ることがあると思った。」「唾液にむせる患者様の対応に役立つと思います。」等実際に患者様と接する場面で役に立つという意見をたくさんいただきました。反面、「時間の割には内容が盛りだくさんだった。」「もっと具体的に教えて欲しい。」という意見もあり、日頃の業務の新しい知識や実際に役立つ内容だったので、もっともっとという思いを感じました。

昨年度は、業者の協賛で行いましたが、今年度から松江医療センター主催で開催致しました。門脇医長・事務部長を中心に、医療教育研修室の運営委員の方々に協力をしていただきました。昨年、席が不足して困ったので、会場係が工夫をして前の扉から開け、前から詰めていただくようお願いをしたりしました。最後に、マイクの音が出ないハプニングがあり大変ご迷惑をおかけしましたが、「続けて参加しています。是非継続してください。」という声もありますので、振り返りをして来年以降はスムーズな運営ができるようにしていきたいと思っています。

来年度は、教育研修部が発足し、院内の教育も充実



して来ることと思います。松江呼吸器セミナーは、院外部門が担当することになっています。H25年度からは、呼吸療法認定士のポイントが取れる研修会に育てていく予定です。今後は内容もより深めていきたいと思っています。

テーマ『嚥下性肺炎対策のキーポイント』

座長 松江医療センター
看護部長 坪嶋美恵子

講演

「誤嚥性肺炎の—診断と治療のコツ—」
呼吸器科医長・医療教育研修室長 門脇 徹

「誤嚥性肺炎の予防と排痰保—呼吸・姿勢の視点から」
リハビリテーション科
理学療法士 平野 哲生

「誤嚥性肺炎防止のためにできること」
国立病院機構 徳島病院
摂食嚥下障害看護 認定看護師
寺尾 聡子

松江呼吸器セミナーに参加して

理学療法士 平野 哲生

昨年に引き続き、松江呼吸器セミナーの講師を務めさせていただきました。今年は院内からも多数の参加者があり、演台から馴染みの顔を見かけると緊張が和らぎ、私に力を与えてくれました(最初は自分でもビックリするほどカミカミでしたが)。今回のテーマは「誤嚥性肺炎対策のキーポイント」です。摂食・嚥下に関して普段関わるのが少ない私にとって苦手な分野で、最初に講師の打診をいただいたときにはお断りしようと思っていました。が、折角のお誘いと思い直し、また準備期間もあったため、お受けして勉強することにしました。広島に行ったり、大阪に行ったり、知れば知るほど「もっと理学療法士として興味を持つべき、できることもたくさんある」とあらためて感じました。今回勉強したことは私の財産です。講演に至るまで、昨年以上に多くの方にご協力いただき本当にありがとうございました。

ケーススタディ発表会

2年目研修「ケーススタディ発表会」を開催して

4階病棟副看護師長 室田 ゆかり

9月27日に2年目研修「ケーススタディ発表会」を行いました。

この研修は、事例をまとめ、自己の看護を振り返り、他者に伝え意見交換することで看護観を深めること、まとめを発表しやりがい感を得ることを目的に毎年行われている研修です。

昨年までは、発表形式は自由で、口頭での発表やパワーポイントを使用した発表でした。しかし、今年度の2年目は19名の大所帯。どのようにケーススタディ発表を行おうかと悩みました。そこで提案したのがポスターセッション。院外での研究発表はポスターセッションが主流。方法を知り、体験する事で院外発表への第一歩が踏めるはず…。そして、ポスターセッション式の発表にすれば、二手に分かれて行いう事ができ、時間の短縮にもなります。そんな思いで初のポスターセッション研修を行う事になりました。

2年目の研修生たちは、受け持ち患者に対して行った看護を振り返り、自分の看護がどうだったかをまとめます。これをまとめるのに一苦労。指導者、副師長、師長のアドバイスを受け、何回も書き直しをしてやっとの思いで出来上がります。原稿が出来上がると、今度はポスター作成です。昨年まではなかった行程。研修生には多少負担だったかもしれませんが、そこは今の若い人たち。思いのこもった、色とりどりのポスターが出来上がりました。

ポスターセッションには、院長先生をはじめ、師長、副師長、指導者、新人看護師、療養介助職などの参加もあり、活気あるものとなりました。研修生全員が、発表は緊張したと答えていましたが、研修後はどの研修生もとてもいい顔で、やりがい感に溢れていました。ポスターセッション後は、グループで今回のケーススタディで頑張ったことや分かったこと、感じたことなどディスカッションし自分の看護観を深めていきました。今回の研修が今後の看護に活かされればいいなと思



います。

研修後、ポスターは2階中央廊下に2週間貼り出しましたが、ご覧いただけましたか？そして、皆さんの投票によりベストポスター賞などを決定することができました。投票総数は53票。「他職種との連携の大切さがわかるポスターだった」「ネガティブな事象が正しく考察してあった」「患者の立場に立った看護が出来ていた」「すべてのポスターが良かった」などたくさんコメントもいただきました。

この研修を通して、色々課題も見えてきましたが、今まで看護部にしか知られていなかった副師長会主催の経年別研修の取り組みが一つ、院内全体にアピールでき良かったと思います。

皆さん、投票にご協力をいただき、ありがとうございました。



ケーススタディを通して

2階病棟看護師 足立 抄子

今回2年目の研修で、日々の看護について振り返るケーススタディの取り組み発表を行いました。ケーススタディでは自己の看護実践の中で1事例を取り上げ振り返り、発表し合うことで自己の看護観を深めることができる研修でした。

発表会に向けて、自分の行った看護や考えをまとめ、伝えることの難しさに悩みましたが、多くの方にアドバイスをいただきながら事例をまとめ、看護実践を理論的に考え発表することができました。

今回のケーススタディを通して気持ちを受け止め向き合うこと、そして想いに対して受け止めていることを表現していくことの重要性や、チーム内や他部門で情報を共有し支えていくことの必要性について学ぶことができました。また、他者の発表を聴き意見交換を行うことで様々な看護観を学ぶことができました。今後の看護実践を通してさらに看護観を深めていけるよう取り組んでいきたいと思っています。

神経・筋難病看護研修参加

神経・筋難病看護研修での学び

1階病棟看護師 林 千鶴

宇多野病院での5日間の研修を通して、私が今まで関わってきた筋ジストロフィー・ALSだけではなく、パーキンソン病・多系統萎縮症・多発性硬化症についての疾患や看護を学ぶことができました。

また、宇多野病院では、退院支援看護師がおり、自治体や保健所との連携や入院中からの退院支援、退院前の合同カンファレンスに患者・家族も参加し情報共有するなど、患者・家族が安心して在宅生活や社会復帰できるような支援が充実していました。

摂食・嚥下についての講義では、嚥下造影を活用し、嚥下機能を把握し、患者個々の状態に合わせた姿勢保持や食事に集中できる環境調整、方法（食器、一口量、空嚥下、交互嚥下など）、食事形態等について、医師や看護師・リハビリが患者家族へチームアプローチしていることがわかりました。

医療安全の講義では、安全に過ごせるような福祉用具（超低床ベッドやベッド柵間の隙間を最小限にすることで転倒予防・柵にカバーをすることで、首が挟まるリスクの減少、保護帽や骨折予防プロテクター、緩衝マットの使用）を患者の疾患や症状、ADLの状態から選択し、患者が安全に過ごせるよう考慮していました。また、救急蘇生や無断離院のシミュレーションを行ったり、実際にBIPAPを装着し体験することや演習を研修に取り入れることでスタッフ一人一人の意識づけを行っていました。

入院から退院後まで一貫した患者・家族への支援の充実。そのためには、他職種によるチームアプローチが重要であると感じました。そして、チーム間でしっかりと情報共有ができれば、より個別性のある看護・医療の提供ができることも学びました。患者が望む生活に近づけるよう、また安心して生活できるよう今回の学びを生かしていきたいと思えます。

第13回 神経・筋難病看護研修に参加して

10病棟看護師 渡部 靖子

私は京都の宇多野病院で行われた第13回神経・筋難病看護研修に参加した。研修では、神経・筋難病の疾患の概論から始まり、それぞれの疾患の看護、退院に向けた関わりや在宅支援の取り組み、社会資源の活用を学んだ。

疾患の概論では、疾患の病態だけでなく、薬の選び方や調節のしかたが学べ、本で調べていたが分からないことが学べた。現在、10病棟には寝たきりの患者が多く、私が就職してからADLの変化がある方が少ない中で、研修ではどのようにして徐々に低下していくのかを学ぶことができ、現在目の前にいる患者は以前はどのようにして生活していたかのイメージを持つことが出来た。

それぞれの疾患の看護については、コミュニケーション方法や食事介助などについて学んだ。コミュ

ニケーション方法は文字盤の形の工夫では病棟で取り入れていないものもあったため、今後情報を共有し患者とのコミュニケーションに活かしていきたいと思う。食事介助は言語聴覚士さんからの講義で、いろいろな食事介助方法で起こる嚥下の変化を実際の嚥下造影でみることが出来、食事介助時に気をつけて行わないと危険であることを学んだ。

退院に向けた援助では、あまり関わることのない援助であるためこのように開始すること、また社会資源の活用は地域連携室とどのような連携を取りながら行うことなど学べた。60名の神経・筋難病の病棟に勤める看護師と様々な意見の交換が行え、活かしていきたいことも、今後も取り組んでいきたいことも、現在の10病棟に置き換えながら意見の交換が行えた。今回の学びを、今後の看護に活かしていきたい。

てんかん看護セミナー研修に参加して

3階病棟看護師 田中千賀子

10月20・21日の2日間、静岡てんかん神経医療センターで行われた、てんかん看護セミナーに参加させて頂きました。

てんかんについての治療から看護まで、知らなかったことが多々あることに気付きました。

その中でも脳波検査では、「頭蓋内脳波」と初めて耳にする検査がありました。頭蓋内に埋め込んで2週間24時間脳波を記録するというものでした。

また、各病棟に脳波室があり、長時間脳波が検査できるようになっていました。いつ、痙攣が起きても記録できるように、患者様が移動しても記録できるように、動くカメラが設置してあり、診断確定や

薬物調整に役立つようになっていました。

また、痙攣が起きた際はどのような痙攣が起きているのか医師が録画を見て分かりやすくする為、看護師さんは患者様の意識の有無や、どの様に経過しているかを声かけし記録されていました。観察力が大変必要になってくると思いました。

病棟見学では、床や壁の素材の工夫やベッドの工夫も見学させて頂きました。「なるべくフロアで過ごすようにしている」とのことで、そのような関わりは私の病棟と同じであると感じました。

今回の研修での学びを少しでも病棟で活かせるように看護していきたいと思います。

総合医学会ベストポスター賞受賞

臨床工学技士 森澤 翠

平成23年10月7日、8日の両日、第65回国立病院学会が岡山で開かれました。

私は「多職種により構成される教育部門による教育活動の成果」という演題で医療教育研修室（現在の教育研修部「時間外部門」）の活動の成果と新たな取り組みについてポスター発表をしました。全国規模の大きな学会への参加は初めてだったので会場に到着すると人の多さに圧倒され、さらに自分が発表までさせていただけることに対して不安を感じ、とても緊張していました。そんな中、当院から参加されていた方から声をかけていただくことで不安を初めての発表に挑戦出来る楽しみに変えることが出来ました。

いざ発表が始まると多くの参加者の方が耳を傾けてくださり、質問や意見もいただくことが出来て、発表内容に興味を持ってくださったことがとてもうれしかったです。そしてベストポスター賞までいただくことができ、今までの研修室の活動を少しでも多くの人に理解してもらえたように感じました。今後も教育研修部

「時間外部門」のメンバーとして責任をもって活動していきたいと思っています。

最後になりましたが、ポスター発表という機会を与えてくださった門脇先生をはじめ、準備の段階から協力していただいた研修室のメンバーの皆様に感謝しています。ありがとうございました。





年

男

年

女



今年の抱負

2 階病棟看護師 花岡 麻衣

私は就職して2年9か月経ちますが、本当にあっという間で、気づけば3年目になろうとしています。1年目は日々の仕事を覚えることで精一杯でしたが、2年目は少しずつ仕事にも慣れ、熱心に指導して下さるスタッフの方々の元で、忙しい日々の中でも多くの学びを得ることができています。今年の4月には3年目となりますが、今以上に患者さんとしっかり向き合い、日々の学びを大切にして、より良い看護ができるように努めていきたいと思えます。

今年の抱負

3 階病棟 療養介護職 松近 美季

2012年 あけましておめでとうございます。

皆様、昨年はいかにお過ごしでしたでしょうか。

私の2011年は、各地で起こった自然災害や様々な犯罪などよくない出来事が多く記憶に残っています。しかし、災害の後の支援や活動で、日本だけではなく世界中のつながりが強く、近くなったように感じます。2011年は"つながり"を感じる事の出来た1年でした。

そして、年が明けて2012年になりました。十二支の中で唯一の伝説の生き物である辰（龍）が今年の干支になります。そして、わたしは年女になりました。自分の生まれた年と同じ干支である今年の抱負は"2012年を楽しみたい年"です。"楽しい"は、色々な意味を含んでいます。4年目に入る介護士の仕事は、しなければならぬ事もたくさん増えてきました。仕事やそれ以外でも、してみたいことがたくさんあります。そんな、公私とも一日一日をしっかりと考え活動していく事で、年の終わりに振り返った時「今年は楽しい一年だった。」という事が出来るのではと考えています。また、2012年は閏年なので一年が366日になります。去年よりも一日多い2012年を"楽しく過ごす"というのが私



の目標です。私事になってしまいましたが、皆様は一年366日の2012年をどのような年にと考えておられますか。

今年の目標

栄養管理室 栄養士 嶋田 直子

生まれて二度目の年女です。まず、今まで元気に過ごしてこられたことに感謝しています。

去年の4月から松江医療センターに採用され、社会人になって8ヶ月になりました。この8ヶ月間は業務を覚えることに必死で、目の前のことを行うだけで一日一日が過ぎ、気づけば年末に差し掛かっていました。正直に言うと、この8ヶ月間の目標は「今日一日の業務を無事やり遂げる」ことのみでした。とりあえず一日をミスなく無事に終えよう、とそればかり考えていたと思います。

最近になって少しずつですが業務にも慣れ、少し余裕をもって周りを見わたせるようになってきたと感じています。働き始めて2年目となる今年は、日々の業務をこなすことはもちろん、栄養士として自分がやりたいことを見つけてコツコツと進めていきたいです。栄養士として自分がやりたいこと・・・と言っても漠然としていてすぐに見つけることは出来ないかもしれませんが、小さな目標をその都度立てて達成できるよう努力し、それを繰り返していくことで自分のやりたいことも見えてくるのではないかなと思っています。常に目標をもって日々過ごしていくことが私の今年の抱負です。

年男を迎えて

臨床工学技士 笠置 龍司

今年で3回目の年男を迎えました。12年前の自分を振り返ると臨床工学技士になり3年目ということもあり「仕事と勉強」の毎日だったように思います。

あれから月日は過ぎ、北九州からここ松江に職場が変わり早10年が経ちました。その間に結婚、二児の誕生と私生活での変化も大きくありました。ただ変化し

臨床研究ポイントについて

臨床研究部長 足立 芳 樹

今年度、当院の臨床研究部は、院内標榜から正式な臨床研究部に昇格しました。非常勤職員も1名採用することができ、4月から小谷久美子さんが事務および研究補助をしてくれています。また、研究費も昨年度までより増額されました。

臨床研究部の主な役割として、①院内研究へのサポート体制の構築、②研究業績の充実、③実験室の整備があげられます。病院は医療を行うところで、医療サービスが最も大切ですが、医療水準の維持、さらに向上をめざすためには研究的側面がとても重要です。日常

医療従事者が忙しすぎてとても研究をおこなったり発表したりできないと考えている職員もいるかもしれません。しかし、時に職場を離れて、学会に参加したり、発表したりすることは、リフレッシュにつながると思います。各職場で、学会発表や論文発表を行い、臨床研究ポイントをあげて頂ければ、病院評価も上がり、臨床研究部を発展させることができます。各職場での取り組みを臨床研究部がサポートさせていただきますので、文献検索、学会発表・投稿準備などお気軽にご相談下さい。

臨床研究活動実績評価表

①国立病院機構が推進している治験、EBM臨床研究等	単位	ポイント	③特許・知的財産収入	単位	ポイント
治験	症例	2.5	特許等収入	万円	0.2
医師主導治験		2.5	特許権出願	件数	10
GCP準拠製造販売後臨床試験	症例	1.25	実用新案権	件数	5
受託臨床研究(文書同意あり)	症例	0.5	意匠権(出願、権利取得)	件数	2.5
受託臨床研究(体外診断用医薬品)	症例	0.1	特許取得件数	件数	50
公費臨床試験	症例	0.5	④業績発表、独自研究		
製造販売後調査(文書同意あり)	症例	0.5	インパクトファクター	点	2
製造販売後調査(文書同意なし)	症例	0.25	英文原著論文(筆頭筆者以外)	本	3
EBM推進研究等新規症例登録数(文書同意あり)	症例	0.25	英文原著論文(筆頭筆者)	本	8
EBM推進研究等新規症例登録数(文書同意なし)	症例	0.1	和文原著論文(筆頭筆者以外)	本	1
NHOネットワーク共同研究新規症例登録数(文書同意あり)	症例	0.2	和文原著論文(筆頭筆者)	本	1.5
臨床研究などプロトコル作成	件	3	和文総説・著書(筆頭筆者以外)	本	1
②競争的資金獲得額			和文総説・著書(筆頭筆者)	本	1.5
文部科学省関連研究費	万円	0.1	国際学会発表(演者のみ)	回	2
厚生労働省関連研究費	万円	0.05	国内学会発表(演者のみ)		
その他の財団などからの研究費	万円	0.1	*総会、地方会、シンポジウム、一般演題含む	回	1
民間セクターからの寄附金等	万円	0.1			

最新CT（64列マルチスライスヘリカルCT装置）導入

診療放射線副技師長 池 口 博 道

今回CT更新に伴い、最新の64列マルチスライスヘリカルCTを導入しました。この装置の特徴は、高速撮影による0.5mmスライス幅での64断面のデータ収集ができるため、従来装置と比べて1検査あたりの時間は短く、患者さんの息止め時間も1呼吸（10秒以下）で撮影する事ができます。更に、多くの高精細の画像

が1回の撮影で得られるため微細病変の抽出に大変優れております。また、高精細画像データはそのまま3次元画像処理に使用できるため形態的診断のみならず質的診断に有効な情報を得る事ができます。そして、最も進化している点は被ばく低減技術の進歩により従来の装置に比べて被ばく線量が半分以下となり、なお

「高校生インターシップ」を初めて受けました

副看護部長 坂本 節子



平成23年10月11日（火）から14日（金）の4日間 島根県立松江農林高等学校2年生4名を受けてインターシップを開催いたしました。

このインターシップは、「専門教科・科目の内容および将来の進路目標に通じる実習を現場で体験し、平常の学習の深化を図る。また、技術革新の進展等に主体的に対応できる能力の育成及び態度を育てるとともに、進路意識の高揚を図る」という学校の目的で4名の生徒が当院で体験を希望されました。

4日間のプログラムは、1日目は病院の中で働く人を知ることで進路の参考になるように、各職場の見学を計画しました。直接職場の人から説明を受けました。2日目は、救急法の技術をICLS受講した看護師から指導うけ、演習を行いました。障害者病棟で働く看護師からは「命の尊さ」について事例紹介を聞き、懇談会を行いました。涙を流しながら聞いている生徒もいて「とっても感動しました」という声が聞かれました。午後からは、新人看護師やベテラン看護師と懇談会の中で仕事のやりがいや、看護師になったきっかけ

などを聞きました。浜田医療センター附属の看護学生から学校生活の様子をパワーポイントでわかりやすく説明を受けました。又、米子医療センター附属看護学校の先生からは入学に関する案内を聞き進路の参考になったようです。3日目・4日目は白衣に着替えて病棟実習を行いました。「患者さんと直接話をして、楽しくあっという間に時間が経ちました」と話してくれました。病棟実習はとても良かったようです。白衣に着替えた4人は、廊下を歩いていると新しい看護師と間違えられ声をかけられる場面もあり、とっても似合っていました。「白衣を着てとてもうれしかったです。」という感想も聞かれました。最終日全体反省会で、全員が今回の体験を通して「看護師になろうと決めました」との発言が聞かれインターシップを実施してよかったと思いました。今後も看護師の仕事を知ってもらい機会を作り、私たち看護師の仲間を増やしていくために、高校生や中学生を対象に職場体験を実施していこうと考えています。



かつ高画質の画像を得るという優れものです。特に肺がんの早期発見を目的として行っている「肺がんCT検診」では、従来の1/4の低線量（被ばくが少ない）で実施していますので被ばくを気にしないで検査が受けられます。

今回導入したCT装置は、患者さんの息止めの負担を軽減し、検査時間の短縮と大変質の高い画像が提供できる為、院内のみならず地域医療の発展に大きく貢献できるものと考えています。



地域医療連携室だより 第7号

2012年 1月

明けましておめでとうございます 本年もよろしくお願い申し上げます



1. 第5回地域医療連携交流会 医療連携室長 副院長 矢野 修一

平成23年10月20日、第5回を迎えた地域医療連携交流会が例年のように松江東急インで開催されました。40周年を迎える当院の沿革と平成25年の外来・管理診療棟（総合診療棟）の完成について院長から例年にも増して熱のこもった挨拶があり会がスタートしました。

県医師会会長の佐藤充男先生、松江市医師会会長の森本紀彦先生から日常診療における当院の取り組みに対し過分なお褒めと今後の当院の発展を期待しているという祝辞を頂きました。また、森本先生から松江市医師会員のCT検診を当院で行いたいという有難い申し出がありました。

次に当院の各診療科（神経内科：足立芳樹、小児科：細田千佳、外科：荒木邦夫、内科：小林賀奈子）から、診療内容および疾患のトピックスについてミニ講演がありました。その後、池田統括診療部長の乾杯の発声で懇親会が始まりました。各テーブルではそれぞれ日頃話せない話で盛り上がり時間が足りない程でした。

さらに湯原紀二先生、吉岡太佑先生、清水正紀先生、伊藤充広先生から当院に対し日頃感じていることや当院への要望等に関するお話がありました。各先生からは社交辞令もあると思いますが、大変うれしい励ましの言葉を頂き、今後一層、職員一丸となって先生方のお役に立てるように努力いたしたいと思っております。歓談ができた懇親会の正味の時間が短く少々慌ただしい感じもありましたが、盛会裏に会を終了することができたと思えます。

交流会は御出席の先生方に日頃お感じになっていることを率直に言って頂くのが第一ではありますが、先生方のお褒めの言葉で反対に主催者側が励まされたことをこの場を借りて感謝いたします。年々医師会の先生方との連携が深まってきているように感じられ、来年もご出席の先生方にさらに喜んで頂ける会を開催できるように頑張りたいと思っております。

最後に、今後ともこの交流会を通じて医師会の先生と当院職員の距離がさらに近くなり益々の連携が図れるようになれば幸いです。来年も是非お越しください。



2. 当院 特殊外来について

第2回目の今回は、「睡眠時無呼吸外来」をご紹介します！



睡眠時無呼吸外来

内科医長 小林 賀奈子

当院で睡眠時無呼吸外来を始めて11年が経ち、約700件弱の睡眠時無呼吸症候群（SAS）の検査をしてきました。SASとは睡眠中に呼吸が止まる、または浅く・弱くなり、それによって様々な日常生活に障害を引き起こす疾患です。SASの病態には大きく分けて3タイプありますが、その多くは上気道（空気の通り道）が塞がるまたは部分的に狭くなることで起こる閉塞型SASです。家族にとっては「いびき」のために安眠を妨害されるだけですが、実は本人にとっては大きな問題があります。夜間に繰り返し起こる無呼吸のため、頻回に脳が目覚めてしまい熟睡ができない結果として、昼間に著しい眠気に襲われます。集中力の低下や作業能力の低下から運転中や作業中の事故の原因となります。

また一方で、無呼吸のときに血中の酸素が不足したり、交感神経の緊張状態が続くため、高血圧・不整脈・心筋梗塞・脳梗塞・突然死などのリスクが高まります。そのためきちんと診断し、治療をしていくことが重要です。

SASの患者さんの多くは肥満に加え、高脂血症、糖尿病、高血圧症などいわゆる生活習慣病をあわせもっていることが多く、積極的な食事療法や運動療法により減量することが必要です。それだけでは改善は難しく、歯科器具による治

療、耳鼻科の手術などがあります。しかし最も有効な（重症の人ほど）治療法として経鼻的持続陽圧呼吸療法（CPAP：シーパップ療法）が行われています。この装置は睡眠中に鼻につけたマスクから持続的に空気を流して気道を広げる圧力（陽圧）をかけ、睡眠中に気道が閉塞するのを防ぐものです。

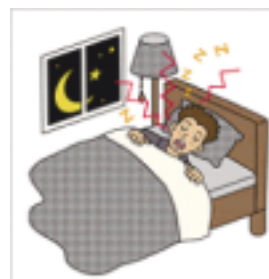
現在、当院の外来では77名がシーパップ療法を受けています。いびき、日中の強い眠気、起床時の頭痛・倦怠感、集中力・記憶力の低下等がSASの主な症状です。思い当たる人は、ぜひ一度、SAS外来（毎週木曜日：午後2時から、要予約）を受診して下さい。

特殊外来のご予約について

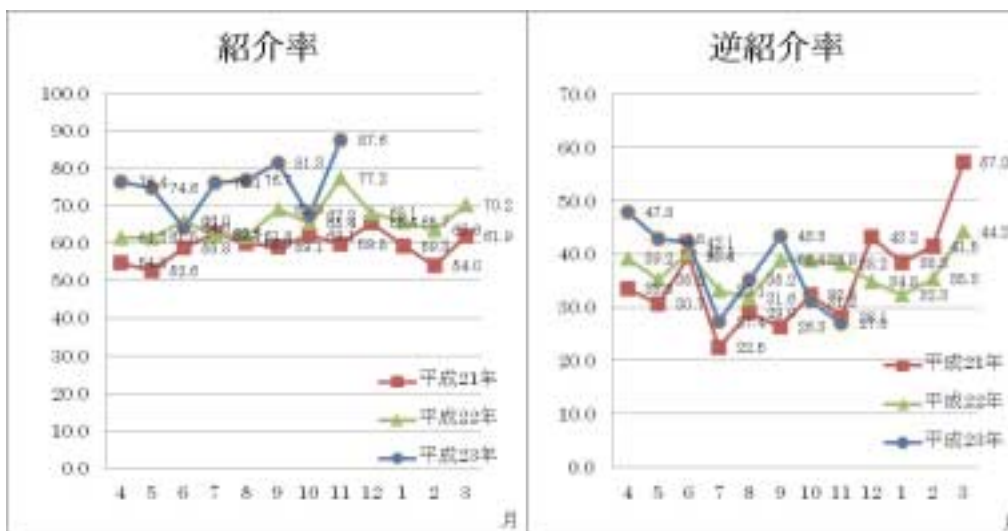
予約制ですので、
FAX予約またはお電話にてご予約ください

☆FAX予約の場合は
当院宛「FAX予約票」をご利用ください。

☆お電話にてご予約の場合は
電話：0852-24-7671（地域医療連携室）へ
お問い合わせください。



3. 紹介率・逆紹介率の推移



4. 退院支援データ

毎週対象病棟で退院支援カンファレンスを実施しています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
退院支援患者	36人	39人	40人	40人	34人	36人	38人	39人				
退院先												
在宅	5人	6人	6人	6人	4人	8人	4人	7人				
施設	3人	0	0	0	3人	0	2人	1人				
病院	5人	3人	5人	4人	4人	4人	4人	2人				

お知らせ

落語会を（1月・5月・9月）に開催しています！

次回の落語会は 1月27日（金）14時より
5階病棟ダイルーム で行います。

皆様のお越しをおまちしております



「教育研修部」から

－覚悟を決めてやる仕事 未来につなげる仕事－

呼吸器科 門脇 徹

"覚悟を決めて仕事をしよう。"

去る2011年10月21日の夜、自宅でNHKのニュースを観ておりました。

そこで、「テレビ朝日カイロ支局長を含む3人が事故死」のニュースが速報で流れました。一瞬にして自身の血の気が引くのを感じました。その直後、テレビ朝日にチャンネルを変え、22時からの報道ステーションを観ることにしました。カダフィ氏拘束のニュースの後に、今度は「事故死」のニュースが流れました。しかも写真入りで…。実は亡くなったテレビ朝日カイロ支局長というのは、中学・高校の同級生。あまりの衝撃に言葉が出ませんでした…。その時期にはとあるSNSを通じて中学・高校の同級生がたくさん繋がりはじめていました。そろそろ高校を卒業して20年。同級生はいろんな分野で活躍しています。そんな中"カイロ支局長"の彼はそのSNSにも登場していたし、「アラブの春」を精力的に現地からリポートする姿をTVでも時にみかけていました。同級生としてその姿は誇らしかったし、私も彼から本当にたくさんの刺激を受けていたのです。実際、彼の死後に彼についての特集記事が複数の雑誌で組まれたほど、様々なところにその悲しみが広がっていきました。同級生でありながら、他の同級生に「背中をみせてくれた」存在でした。職業や生き様は違えども、高みを目指す姿勢は同じだったと思います。37才。まだやりたいことが山ほどあったことだろうと思います。その思い、引き継いで私ももっと頑張っていこう。頑張るしかない。悲しみの中、そんな風に強く思いました。彼の死から約3週後に東京で同級生8人と久しぶりの再会を果たしました。自分の仕事に誇りを持ってやってる彼らに出会ってうれしくなり、またたくさん励まされました。驚いたのが8人のうち2人に癌の既往があったこと。1人は早期胃癌で胃全摘、もう1人は急性リンパ性白血病完全寛解後。元気で何よりでしたが、そろそろ自分の健康も意識しながら生きていかないといけないことを痛感した次第です。

同じ月に亡くなったApple社のCEOであったSteve Jobsは伝説となったStanford大学でのスピーチでこんなことを述べています。

『「今日が人生最後の日だとしたら、私は今日する予定のことをしたいと思うだろうか？」そしてその答

えが「いいえ」であることが長続きするたびに、私は何かを変える必要があると悟った。』

このスピーチをした前年にSteve Jobsは膵臓ガンと診断され、手術を受けています。一度死を意識したJobsの言葉は非常に重たいのです。皆さんはこの言葉をどう受け止めますか？私は同級生の彼の死後、しばらく彼のことやSteve Jobsの言葉が頭の中をぐるぐる回っていました。いろんなことを考えました。でもやはり覚悟を決めて頑張るしかないのです。そうすれば今の自分、そして未来の自分が後悔しないはず。弱い自分は面倒なこと、関わりたくないことから自分を避けておきたい、そんな風に思ってしまう。自分のやりたいことを優先したいという思いもあります。Steve Jobsのように「今日が最後の日」とまではなかなかいきませんが、覚悟を決めて一生懸命仕事をやりきることはできるはず。です…。

"未来につなげる仕事をしよう。"

覚悟を決めると前を向くしかありません。

国立病院機構の理念は「臨床・教育・研究」の3本柱を高いレベルで行うことを謳っています。もちろん診療・研究も高いレベルで取り組んでいますが、今は特に教育について力を注いでいるところです。教育部門の再編を行い、来年度からは教育研修部を発足させます。私とその部長に就任いたしました。現在多くの職員に関わっていただき、準備を進めています。教育研修部の詳細は次号に載せる予定ですが、そのコンセプトは

『教育の発信源を一つにし、より効率のいい教育を提供しよう』というものです。そして教育研修部は教育に関する全ての事項の把握と"フィルター"の役割・権限を持ちます。

この教育研修部はご想像のように仕事量が膨大です。まともにやればやるほどしんどい仕事です。しかもすぐに結果が表れない…。じゃあ何でそんなことするの？とお思いの方もいるでしょう。やらなきゃいけないのです。なぜか？

明日の人材を育てないといけないからです。

自らの組織の人材を育てることができなければその組織は早晩"終わって"しまいます。

現時点でも院内教育は"そこそこ"充実してきたとは

思っていますが、まだまだ一貫性がなくテコ入れが必要です。レベルの高い教育は日進月歩の医学の世界では絶対に欠かせないのです。古い施設や機器を更新することももちろん大事ですが、それに見合った人材の育成も同時にしていかなければいけないのです。ですから教育は当院の未来に直結する仕事と私は考えています。良い人材が育てばより診療レベルも上がり、患者さんやご家族もよりhappyになれると信じています。もちろん職員自身が自らを磨いていく姿勢が最も重要であることは言うまでもありませんが、効率よく高いレベルの教育を受けられるシステムを作り、職員に提供することは病院全体として取り組むべき仕事です。私は教育研修部初代の部長としてそのシステム作り・

運営に貢献していきたいと思っています。幸い、当院には優秀な職員が大勢います。これは本当にありがたいことだと思っています。皆さんの力を借りてどこにも負けない『教育研修部』を作り、当院の"バラ色の未来"につなげていきたいと考えています。

何年か後に、

「教育研修部ができてよかった」と職員の皆さんに言っていただければそれがおそらくイチバンの評価でしょう。そうなるよう益々努力したいと思います。

"覚悟を決めてやる仕事。

未来につなげる仕事。"

私にとってそれは教育の仕事です。

第5回健康フェスタ開催



市民の健康づくり運動を展開するためのイベントと、併せて松江医療センターの診療機能紹介を目的として行われている健康フェスタが今年もイオン松江店で開催となりました。

イオン松江店は去年までは松江サティという店名でしたが、運営会社の変更に伴い店名も変更になりました。そのため、使用手続き等が前年より変更され、当然のことではありますが、会場は閉店前までに片付けをしなければならず、物品の搬入も所定のルートだけの使用となったため準備に少し時間を要しました。しかしながら、営利を目的としない公共性の高い企画と認定して頂き電気代及び駐車料金については今年度については無料として取扱を受けました。ありがとうございました。

会場は松江市内最大のショッピングモールで県内外から多くの買い物客が来る店で、イベントを行うには最適の場所です。また、室内での実施のため、天候の心配もありませんし、空調の効いた爽やかな環境で開催することができました。(本当にありがたいものです。)

当日は、会場設営を去年より1時間早い10時30分か

健康フェスタ実行委員会

ら行い、木村医長の開会宣言の後12時30分から健康フェスタを開始しました。

健康フェスタ会場は食堂街の真っ直中にあり、開始時刻の12時30分から13時30分頃は来場者がもっとも多い時間帯でしたが、特に混乱もなく対応することが出来ました。

結果は、来場者数104名ということで前年より若干少なめでしたが、骨密度測定と体脂肪率測定は例年人気のコーナーで、終了まで何人もの人で順番待ちの列が出来ていました。また、参加者の内訳は、会場がショッピングモールだったからではないと思いますが、今年も女性の方の参加が多く健康への関心の強さ、積極性を感じました。

最後に、アンケートの集計から約9割の人に満足をしていただいたことが分かりました。「普段出来ないような検査をしてもらい、自分の状態が分かり良かった」とか「また実施して欲しい」などの感謝や励ましの意見をいただいたことは実施した私たちには強い励みになり、来年もガンバロウと言う"やる気"をもらいました。



ピアノを寄贈していただきました

看護部長 坪 嶋 美恵子



さる10月28日、5階病棟ホールにピアノが設置されました。ピアノを寄贈して下さったのは、み

なさん御存知の人もいると思いますが、田部妙子さんです。田部さんは自宅に2台のピアノをお持ちで、今回その内の1台を寄贈していただきました。

田部さんについて少し紹介しましょう。実は田部さんは国立病院機構のOBでもあります。当院の元看護学校の教育主事でもありました。その後国立療養所広島病院（現：東広島医療センター）・呉病院（現：呉医療センター）・岡山病院（現：岡山医療センター）の看護部長を歴任し退職されました。私とは広島病院で一緒に勤務させていただきました。このたび私は松江医療センターで勤務することになり、田部さんに再会し、親しくさせて頂く御縁をいただきました。話はずむうちに田部さんと同郷であることも分かりました。看護師としても、人間としても人生の大先輩であります。約20年振りの再会でした。とても素敵な看護部長さんでしたが、あの頃と変わることなく月日だ

けが過ぎていました。田部さんはピアノがとてもお上手です。趣味の域を越え、島根県のシニアの部で最優秀賞を受賞されたほどの腕前です。先日も田部さんの自宅へ伺い、リチャード・クレイダーマンの渚のアデーレや愛しのクリスティーヌ、星空のピアニスト等々演奏していただきました。ピアノの音色を聞きながら、うっとり心が癒されるようでした。

5階病棟のホールはとても広く、またホールからの眺めは松江市内が一望でき、宍道湖も見える最高のロケーションです。入院されている患者さんやご家族の方、面会に来られた方、また職員の癒しの場にもなっています。このたび田部さんにピアノを寄贈していただき、このホールがまた一段と素敵な空間となりました。このホールでピアノの音色を聞くことで、嫌なことも辛いことも忘れ、心が洗われるような気持ちになることでしょうか。またみんなが同じ音色を聞くことで、離れている心と心が一つになり、新しい出会いもあるでしょう。これからこのホールで、頂いたピアノが眠ることなくきれいな音色を響かせ、私たちの手で活躍させていきたいと思ひます。

田部さんどうもありがとうございました。この紙面をお借りし、改めてお礼を申し上げます。今後も松江医療センターの成長・発展をピアノとともに見守っていて下さい。

大きな3鉢の菊を飾る

撮影透視主任 國 谷 直 希

毎朝小学生の子供を見送る際、上乃木三叉路で交通指導をして頂いているご縁で知り合いにならせていただいた中原自治会の石倉会長さんから「病院に菊の花を飾らせてもらえませんか？」と声を掛けていただきました。事務の方に相談し許可を頂き飾っていただく運びになりました。

当日は大きなトラックで大切に扱われて運ばれてきました。玄関に飾られた3鉢の菊は、私の想像をはるかに超えていました。とても立派で優しく咲き誇っていました。およそ1週間と短い期間でしたが当センターに来院された患者さんや家族の皆さん、そして多くの病院職員がしばし足を止め、心癒される瞬間をいただける事ができたのではと感じております。菊の花言葉である「愛情」「誠実」これこそが患者さん目線の安心できる質の高い温かい医療・療育を提供するという病院目標に必要なキーワードではないかと思ひます。

石倉さんは、「何十年も前は、自由に病院の敷地で野球をしたり、病棟で看護師さんと卓球をしたりしました」と懐かしそうに話されていました。今後も機会があれば菊を飾っていただく事も快く承して頂きました。最後に徳島院長からの御礼状を大変喜んでおられました事を付け加えさせていただきます。石倉さんありがとうございました。



今年もイルミネーション点灯

企画課長 長島 潔

震災で日本中の気持ちが沈んだ平成23年でしたが、元気づけの意味で年末イルミネーションを引き続きやろうということになりました。

松江医療センターは国道432号に約300mも接していますが、この界限は街灯もまばら、店舗も少なく、夜は寂しい限りです。唯一向かいの美容院さんがイルミネーションをされていて年々拡大されているようです。当院も平成19年からほんとに地味なものから始めました。電気代のかからないLED球が100個ついた10mのケーブル10本が始まりで、平成20、21年と10本ずつ増やして現在はLEDが白赤青それぞれ1000個ずつあります。

派手にならない暖かみを感じる医療施設らしいデザインはどうしたらいいのかが、毎年悩むところです。平成23年度はデザインコンセプトとして、23年の目標チーム医療でしたが、チームが結束して高い目標に到達するんだ！という感じで写真のような形にしました。到達目標としてブルースターを1個追加しました。今までは築山の植木の枝にケーブルを架けていたのです

が、この度は病院裏山の10mほどの竹を4、5本切りこれを矢倉にしてブルースターを天辺に二等辺三角形の光のツリーを作りました。矢倉部分は青白ケーブル20本をぎっしり配置し、広がり部分は赤ケーブル10本です。

例年に比べすっきりしたのと、国道から見ると高さがあるので、結構大きく感じます。松江市には図書館のプラバホールやイングリッシュガーデンなどすばらしいイルミネーションがありますが、上乃木5丁目松江医療センター

センター界限も地味ながら、今年はやさやかなイケてるかな？



●●● 松江医療センター元気宣言！ ●●●

松江医療センター野球部初公式試合 報告

児童指導員 市河 裕 智

去る9月23日、金曜日の秋分の日に島根県病院対抗親睦野球大会が開催され、当院からは、療養介助職の若手を中心にチームを編成し出場しました。結果は残念ながら、この親睦野球大会の優勝病院にコールド負けを喫してしまいました。

試合結果に一喜一憂するわけではありませんが、やはり勝負に負けるというものは悔しいもので、来年・再来年の親睦野球大会では結果を残したいと思いました。

私自身、野球の素人ですが、経験者を中心にいろいろと教えてもらうなかで、スポーツはやはり、幾つになっても（36歳とまだまだ若いつもりですが…）いいなぁと思いました。さすがに20代の時と比べると機敏な動きは劣りますが、自分の思っているイメージで体を動かし、汗をかくことがとても気持ちいいです。メンバーも交代制勤務のなかで、定期的に集まって練習

することがなかなかできませんが、今後もこのような機会にはぜひ参加させていただこうと思っています。

最後になりましたが、松江医療センター野球部では部員を募集中です。経験・未経験・性別等を問わず、野球に興味のある職員ならだれでも応募していただけます。詳細は療育指導室の市河（内787）までお問い合わせください。



外来診療表

お気軽にご相談下さい

平成23年11月1日～

診療科	日	月	火	水	木	金	専門領域
呼吸器内科	矢野	小林	木村	門脇	池田	【呼吸器内科】 矢野 修一 池田 敏和 小林 賀奈子 木村 雅広 門脇 徹 若林 規良 石川 成範	【副院長】呼吸器一般（肺循環・肺がん・結核他） 【統括診療部長】呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般・アレルギー 呼吸器一般
	若林	若林			木村		
循環器内科	石川		石川			【循環器内科】 石川 成範	循環器内科一般
消化器内科	三原				石原		
神経内科		下山		足立芳樹		【神経内科】 足立 芳樹 下山 良二	【臨床研究部長】神経内科 神経内科・リハビリテーション
外科	徳島		目次		荒木		
小児科	久保田 (予約)	齋田 (予約)	齋田 細田 (予約)	久保田 (予約)	齋田 (予約)	【小児科】 齋田 泰子 久保田 智香 細田 千佳	【院長】呼吸器外科・胸腔鏡下手術（肺癌・自然気胸他） 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科
	細田	久保田	久保田	細田	久保田		
発達専門外来		(予約)				【小児科】 齋田 泰子 久保田 智香 細田 千佳	【麻酔科】 足立 洋心
予防接種		(予約)					
肺がん検診	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	【外科】 徳島 武 目次 裕之 荒木 邦夫 足立 洋心	【院長】呼吸器外科・胸腔鏡下手術（肺癌・自然気胸他） 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科
睡眠時無呼吸外来				呼吸器内科 担当医(予約)			
息切れ外来		呼吸器内科 担当医(予約)				【小児科】 齋田 泰子 久保田 智香 細田 千佳	【麻酔科】 足立 洋心
喘息アレルギー外来	若林 (予約)				池田 (予約)		
咳嗽外来	若林 (予約)				池田 (予約)	【麻酔科】 足立 洋心	麻酔科・呼吸器外科・一般外科
禁煙外来				毎週木曜日 呼吸器内科 担当医(予約)			
アスベスト外来		小林 (予約)	木村 (予約)	門脇 (予約)		診療時間 8:30～17:15 受付時間 8:30～11:30 自動再来受付 7:30～11:00	
嚔下障害外来		下山 (予約)					
神経難病外来		下山		足立		 独立行政法人 国立病院機構 松江医療センター 呼吸器病センター 〒690-8556 松江市上乃木5丁目8番31号 電話 (0852) 21-6131(代) 医療連携室直通電話 (0852) 24-7671 医療連携室 F A X (0852) 24-7661	
筋ジストロフィー専門外来				下山 (予約)			
その他	セカンド オピニオン 外来	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	

小児科発達専門外来	診療日：毎週月～金曜日 内容と特色：こたばや運動の発達の遅れ、低身長などの発育の異常、ひきつけなどの疾患に対する診断・治療療育相談を行っています。投薬、理学療法など通常治療のほかデイケアでの遊戯療法も行っています。
肺がん検診	診療日：毎週月～金曜日 15：00～16：30（要予約） 内容と特色：ヘリカルCTを使用し、小さな肺がんも発見できます。料金5,250円（+喀痰検査で6,300円）
睡眠時無呼吸	診療日：毎週木曜日 14：00～16：00（要予約） 内容と特色：いびき、睡眠時無呼吸症候群の診断治療を行います。
息切れ外来	診療日：毎週火曜日 13：00～15：00（要予約） 内容と特色：息切れの診断と治療を行います。
喘息アレルギー外来	診療日：毎週月・金曜日 9：00～12：00（要予約） 内容と特色：成人気管支喘息・花粉症。個人個人に合わせた予防法、日常生活指導から最新の治療まで。
慢性咳嗽外来	診療日：毎週月・金曜日 9：00～12：00（要予約） 内容と特色：3週間以上長引く咳（せき）や喉の異常感でお悩みの方。
禁煙外来	診療日：毎週木曜日 10：00～12：00（要予約） 内容と特色：禁煙を希望される方の検査、診断と相談に応じます。
アスベスト外来	診療日：毎週火・水・木曜日 8：30～11：00（要予約） 内容と特色：石綿（アスベスト）曝露による肺障害を発見するための検査と診断を行います。
嚔下障害外来	診療日：毎週火曜日 8：30～ 嚔下障害外来（要予約）
神経難病外来	診療日：毎週火・木曜日 8：30～ 神経難病外来
筋ジストロフィー専門外来	診療日：毎週木曜日（予約＝指導室まで）8：30～ 内容と特色：筋ジス病棟医が診療に当たります。診断から在宅ケアのための医療や介護・福祉サービスの紹介など専門的、総合的外来です。在宅患者に必要な定期的精査短期入院（筋ジスドック）も受け付けています。
セカンドオピニオン外来	診療日：（完全予約制）紹介状が必要です。 内容と特色：呼吸器・呼吸器外科・神経内科・小児科（筋ジス）の専門医（医長）が担当いたします。